

30by30目標 (p.15参照)

30by30とは、2030年までに陸域と海域の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標であり、ネイチャー・ポジティブ実現に向けた目標の1つとして位置付けられている。

環境省では、30by30目標達成のための主要施策と個別目標を示した30by30ロードマップを公表し、取り組みを推進している。

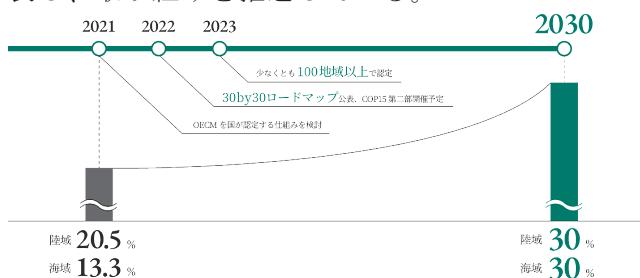


図-1 30by30ロードマップ

国総研 道路環境研究室 橋本浩良

ETCとETC2.0 (p.42参照)

Electronic Toll Collection System (ETC)とは、有料道路の料金所に設置された路側アンテナとETC車載器との間で双方向通信を行うことにより、一旦停止することなく料金の支払いを行うシステムである。

ETC2.0とは、高速道路や直轄国道に設置された路側機と、ETC2.0に対応した車載器との間で双方向通信を行うことで、「車両の走行履歴・挙動履歴（ETC2.0プローブデータ）の収集」および「渋滞回避支援・安全運転支援などの情報提供」を行うシステムである¹⁾。

ETC2.0プローブデータ (特定・一般) (p.42参照)

ETC2.0プローブデータは走行履歴データと挙動履歴データから構成される。走行履歴データは、車載器のGlobal Positioning System (GPS)機能により測位された点を「前回の測位点から200m走行した地点」または「進行方向が45度以上変化した地点」で記録したデータである（図-2を参照）²⁾。

<蓄積のイメージ(200m走行毎、45度方向変化時の例)>

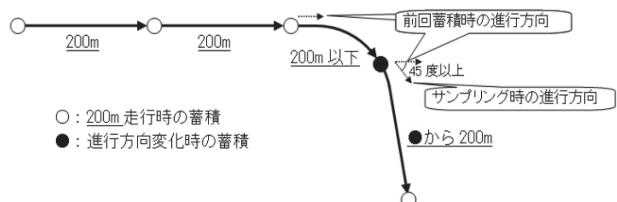


図-2 走行履歴データの記録イメージ

挙動履歴データは、車両の加速度が閾値（前後加速度： $-0.25G$ 、左右加速度： $\pm 0.25G$ 、ヨー角速度： $\pm 8.5deg/s$ のいずれか）を超過した地点の位置と加速度を記録したデータである²⁾。これにより、潜在的なヒヤリハット地点の特定が可能となる。

特定プローブデータとは、物流事業者等から申請された特定の車両に関する走行履歴や挙動履歴のデータである。運行状況を把握するため、個車のデータとして物流事業者へ提供される。

これに対し一般プローブデータとは、Digital Road Map (DRM) 区間等の単位で、一定の時間単位で統計処理されたデータである。これにより、区間単位の平均旅行速度等が把握可能となる。

参考文献

- ITSサービス高度化機構：Web版ETC便覧（令和6年度版）、
<https://www.its-tea.or.jp/library/etcHandbook.html>
- 道路新産業開発機構：電波ビーコン5.8GHz帯データ形式仕様書アップリンク編1.3B版、2011

国総研 高度道路交通システム研究室

今野 新